

令和4年度 学校自己評価

※ 評価基準 4点（よくできた） 3点（できた） 2点（あまりできなかった） 1点（できなかった）

No.	分掌	評価達成目標	成果指標・取り組み内容	年度	4	3	2	1	評価平均	来年度に向けての改善の方策
1	総務	児童生徒・職員が安心・安全に生活できる学校環境・職場環境をつくっていく意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回、防災の日と安全点検の日を設定し、職員による生徒への講話や訓練、施設の点検を実施する。 ・職員研修を実施する。 ・職員会議等の時間を1時間以内に設定する。 	前年	52.5%	44.3%	3.3%	0.0%	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・グループウェアを活用し、職朝で啓発、共通理解を図る。各学部の防災係を中心に指導計画の評価、改善を行いながら、学校全体の安全意識を高める。 ・来年度に向け、職員事後アンケートをもとに、研修内容の精選及び検討を行う。 ・資料に会議終了時刻や提案予定時間を示し、内容や会議の持ち方など改善に向けて意識を高める。
				当年	39.3%	60.7%	0.0%	0.0%	3.4	
2	教務	令和5年度からの校務支援システム本格運用に向け、周知を図りその操作方法を伝達する。	<ul style="list-style-type: none"> ・他の分掌部と協力し、職員研修にて研鑽を積む。 ・新年度よりスムーズに運用できるよう準備する。 	前年	19.7%	67.2%	13.1%	0.0%	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が生じた際に、その都度情報を伝達する。 ・必要に応じて、研修会を実施する。
				当年	21.3%	63.9%	14.8%	0.0%	3.1	
3	生徒指導	マナーの向上と児童、生徒の主体的活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回の登下校指導、年3回のスクールバス降車訓練を行う。 ・生徒会行事や部、同好会活動など児童、生徒を共に活動させる。 	前年	37.7%	59.0%	3.3%	0.0%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全学習や自力通学生の登下校指導を継続的に行う。 ・降車訓練では、実際の災害時を想定し、全体の動きを細かく想定し直した上で行う。 ・生徒会行事、部同好会活動を継続維持しながら活動内容を検討していく。
				当年	37.7%	57.4%	4.9%	0.0%	3.3	
4	進路指導	卒業後の生活を見据えたキャリア教育・就労支援の更なる充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や校内・校外実習、見学会、各種検定などの取り組みを通じて、児童生徒一人ひとりの生活に必要な力や働く力を育てる。 	前年	54.1%	44.3%	1.6%	0.0%	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学会を個別に実施していく。 ・生徒の実態を把握した上で、将来を見据えて校内、校外実習を計画し、生活に必要な力や働く意欲を育てる。 ・清掃体験や検定に向けた授業を充実させる。
				当年	37.7%	57.4%	3.3%	1.6%	3.3	
5	保健	児童生徒の健康な心と身体づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりや掲示物、および全校朝会などで、健康や安全に関する情報を発信する。 ・身体計測、清潔検査、日々の健康観察、感染症対策を行う。 ・児童生徒の発達段階に応じた性教育に取り組む。 	前年	42.6%	52.5%	4.9%	0.0%	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の興味関心を引く保健だよりや掲示物づくり、全校朝会などで健康や安全に関する情報を発信する。 ・身体計測、清潔検査、日々の健康観察を行い、児童生徒が健康に過ごせるよう感染症対策を行う。 ・教職員を対象に、授業に生かせる性教育研修を計画、実施し、児童生徒の発達段階に応じた性教育に取り組む。 ・医ケアルームの環境整備、充実を図る。
				当年	41.0%	57.4%	1.6%	0.0%	3.4	
6	研究・研修	教科・領域を合わせた授業を公開し、他学部の授業の様子を知るとともに、指導の中に教科の視点が適切に取り入れられているかを評価し、授業の再検討を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導略案を作成する際に教科の視点を明記し、教科で評価ができるように研修を重ねる。 ・教職員の専門性の向上や校務支援システムへのスムーズな移行のために研修を計画・実施する。 	前年	41.0%	50.8%	8.2%	0.0%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・実践研究と関連のある研究会を計画し、より専門的な研究にする。 ・教科や回数を増やした公開授業を実施し、授業内容や指導略案の充実を図る。 ・授業評価の観点を明確にして評価を行う。 ・グループウェアを活用し、出張扱いの研修をフィードバックし、情報共有する。
				当年	34.4%	60.7%	4.9%	0.0%	3.3	
7	支援	校外の支援と連携を推進し、校内の支援体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校園所及び関係機関との連携をする。 ・校内の支援体制を各学部支援部員を中心に行う。 ・自立活動の推進を図る。 	前年	32.8%	52.5%	13.1%	1.6%	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部支援部教員の活動の充実を図る。 ・自立活動指導略案を学期ごとに作成し、重点項目6区分を意識させる。
				当年	29.5%	65.6%	4.9%	0.0%	3.2	
8	管理情報	情報機器や備品等に関わる学校環境の整備や管理、また校内の教育ICTの有効的な活用を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報室を整備し、授業や検定学習への対応、及び職員のオンライン会議参加への環境整備と支援を行う。 ・ICT活用スキル向上のための情報(アプリ、ツールなど)を発信する。 	前年	36.1%	55.7%	8.2%	0.0%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・本校ICT教育の拠点として情報教室内の機器管理を進め、授業やオンライン会議使用のためのより使いやすく整備を進める。 ・ICT機器活用の推進や活用スキル向上のための情報(アプリ、ツール等)配信や研修をする。
				当年	32.8%	63.9%	3.3%	0.0%	3.3	

No.	分掌	評価達成目標	成果指標・取り組み内容	年度	4	3	2	1	評価平均	来年度に向けての改善の方策
9	小学部	児童の障害特性、実態、目標、支援方法を明確にし、学部学年で共通理解して日々の教育活動に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> ・学部会、学年会、研修の場で情報共有し合い、一人一人に応じた適切な支援について検討する。 ・教科の視点を明確にした授業に取り組む。 	前年	52.6%	47.4%	0.0%	0.0%	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・学部、学年会で定期的に児童の共通理解を継続するとともに、必要に応じてケース会議や専門家への相談の機会を設定して実態把握と分析を深め、より適切な支援を行う。 ・教科を明確にした授業実践と評価を適切に行い、日々の授業に活かす。
				当年	36.0%	64.0%	0.0%	0.0%	3.4	
10	中学部	生徒一人ひとりの特性の理解を踏まえて、めざす将来像を明確にした教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間で目標設定や成果を共通理解する機会を増やし、生徒が主体的に取り組める授業づくりを行う。 	前年	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に関する情報の共有を継続するとともに、生徒一人一人の将来を見据えた課題について学部全体で共通理解を深め取り組む。 ・生徒が主体的に取り組める授業づくりを実践する。
				当年	30.0%	70.0%	0.0%	0.0%	3.3	
11	高等部	卒業後の進路を見据え、障害の状況や多様なニーズに応じた指導・支援について共通理解を図り、協働して教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の社会生活や余暇活動を視野に入れたカリキュラムについて、情報を共有し、取り組む。 ・生徒の目指す姿、状況、対応について、密に報告・協議を持つ。 	前年	28.0%	60.0%	12.0%	0.0%	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を見据えた指導・支援を充実させる。 ・生徒の障害特性の理解と指導について、情報を共有していく。
				当年	21.9%	65.6%	3.1%	9.4%	3.0	
12	人権	自分を大切にし、お互いの違いを認め合い、思いやりや助け合いの心を育てる人権教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権に関する教職員向け研修や特別活動および学校生活全般を通して人権に配慮した教育活動に取り組む。 ・日頃から人権に関する情報発信を行い、教職員間で共有する。 	前年	36.1%	50.8%	13.1%	0.0%	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修だけでなく、日頃から様々な人権問題に関して意識を高めて活動する必要がある。人権に関する内容は変化し、多様であるため、引き続き人権に関する情報発信を豊富に行っていく。
				当年	26.2%	70.5%	3.3%	0.0%	3.2	
13	交流	学校、地域間交流を通して、人間関係を広めてお互いの理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・交流相手との事前・事後の打ち合わせを密にし、方法や内容を工夫した交流を実施する。 ・事前学習を通して児童・生徒に見通しを持たせる。 	前年	31.1%	50.8%	14.8%	3.3%	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により中止になっていた交流についても、感染症対策を行い、内容を変更するなどして、できるだけ実施するように検討していく。
				当年	32.8%	60.7%	6.6%	0.0%	3.3	
14	コロナ対応	感染防止対策を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な健康観察、手洗いの励行、マスクの着用を徹底する。 ・3密を避ける指導方法や学校全体の対策を徹底する。 	前年	37.7%	57.4%	4.9%	0.0%	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症が第5類に引き下げられても、当面は、健康観察や手洗い、マスクの着用は続けていく。 ・感染症対策を残しつつ、学習指導を徐々にコロナ前に戻していく。
				当年	36.1%	62.3%	1.6%	0.0%	3.3	